

会 議 録（概要）

会議の名称	令和４年度第１回利活用促進部会
開催日時	令和４年９月２０日（火） 午後１３時００分開会 午後１４時００分閉会
場所	Web 開催（金井コミュニティセンター２階大会議室）
議題	（１）戦略部会の構成・主な検討テーマ・検討成果の例 （２）戦略部会での検討事項に関する意見交換
会議の公開・非公開	公開
出席者	東北電力ソーラーｅチャージ(株) 佐渡ガス(株) 静岡ガス(株) 佐渡市地域循環社会推進協議会 (株)アドバンテック 新潟県建設業協会佐渡支部 渡辺産商(株) 尾畑酒造(株) 佐渡汽船(株) (株)第四北越銀行 <事務局> ・佐渡市 総合政策課 地域エネルギー係 係長 渡部達也 総合政策課 地域エネルギー係 主事 北見航希 ・大日本コンサルタント(株)
会議資料	別紙のとおり
傍聴人の数	０人
備考	

会議の概要（主な発言等）

1 開会

2 部会長の選任

- ・事務局案のとおり、佐渡ガスを部会長とすることで承認を得た。

3 議題1）戦略部会の構成・主な検討テーマ・検討成果の例

- ・事務局より説明。

議題2）戦略部会での検討事項に関する意見交換

- ・弊社は、家庭用に太陽光と蓄電池を設置して、太陽光の電気を直送する PPA 事業を新潟・佐渡にて展開している。本事業は、住宅や店舗など低圧受電の施設をターゲットとしているが、事業の展開にあたり、リフォーム、補強工事等を取り扱う会社とのタイアップが課題となっている。エネルギーサービスのマッチングについても情報発信部会と連携して進められると良いと思う。

- ・島内で森林を活用したバイオマスについて利活用を考えている。作った電気をどのように需要施設で利用するか、電力会社や需要側とのコンセンサスが重要となる。再エネ利用では EMS が重要になると思う。

- ・弊社は、様々な地域で再エネを導入してきた実績があり、ノウハウを活用して佐渡で取組を進めていきたい。EMS については、佐渡の特徴として広大なエリアを対象とするということが課題となる。一方、分散型の再エネ利活用としても可能性があると思う。ローカル、広域のそれぞれで効率的な EMS の運用を考える必要がある。再エネの導入促進は地域の合意が重要であり、省エネ、再エネの取組と並行して取組む必要がある。PPA の導入を踏まえ、余剰・不足のエネルギーの融通を考えていくことが重要であろう。

- ・建設機械の中にはハイブリッドの油圧式機械があるが、島内でも導入している企業があるなど、徐々に車両や機械の新エネルギー化が進んできている。また、島内には地上置きパネルの建設に携わる会社もある。建設業協会としては設備導入や設置等に関する技術力向上に努めていくことが重要と考えており、新エネルギーの導入に貢献していきたい。

- ・弊社は、太陽光、蓄電池を設置する事業を行っている。以前は売電を主体とするケースが多かったが、近年は蓄電池を設置してエネルギーを有効利用するケースが増えてきている。家庭向けへ PR する機会があれば普及していくと思う。弊社は島内の客先のニーズも伝えられるので議論を進めていければと思う。

- ・将来的にはエコアイランドとして注目される佐渡で取組を行うこと自体が、商品としての付加価値向上に繋がると良い。ブランディングや高付加価値化について脱炭素化が貢献できるということを示すことが重要と思う。実際の設備導入ではイニシャル、ランニングを抑えることが重要で、事前調査にてパネルの設置可能性を調べるなど、導入に向けた仕組みづくりが重要と思う。

- ・船舶の再エネ化は技術革新が必要になる。レンタカーは県・市の補助金を活用した EV 化を、また営業車の電動化も検討を進めている。EV は充電スタンドが重要で行政にはインフラの整備をお願いしたい。
- ・民間事業者や島民への取組推進では、再エネに加えて省エネが重要と考えている。具体には LED 照明の導入や高効率ボイラーの導入など、エネルギー効率を上げていくような議論ができると良い。
- ・現在、全国のカス事業者、電力事業者、化学プラントを持つ事業者、国等が連携し、製造過程で CO2 を排出させないなど、ガスのグリーン化に向けた技術革新に取り組んでいる。これらの技術革新の前に、低炭素化が重要だと思う。ボイラーの更新といった低炭素化を目指していき、その後、技術革新を経て脱炭素化を実現することが重要である。
- ・弊社が行う家庭用 PPA 事業は、多様な事業者の連携が必要となるが、利活用促進対策部会では、島内の PPA 等の再エネや省エネ導入の全体の方向性を定めつつ、家庭や事業者など、需要施設やパターンに応じた個別の議論が出来ればよいと思う。